

# 用見崎遺跡Ⅲ

# 序 文

1996年の研究室の発掘調査は、夏から秋まで、以下の4箇所でおこなった。ここに収録するのは、以下のうちの、前半2箇所についての報告である。

- ・鹿児島県大島郡大島笠利町用見崎遺跡（7月10日～23日）
- ・熊本県阿蘇郡西原村（8月10日～18日）
- ・熊本県宇土市椿原古墳（8月20日～28日）
- ・熊本県阿蘇郡蘇陽町城ノ本遺跡（10月31日～11月3日）

遺跡の調査には、学部生、大学院生ともに2箇所以上の参加を求められる。大学院生はことにフィールドマスターを務めなければならないので、それぞれ緊張の連続であったろう。しかし、奄美で砂丘をほり、夏の阿蘇高原では旧石器の狩人の足跡を追い、宇土半島で終末期古墳を実測し、阿蘇の晩秋に、今話題の「山間の弥生時代から古墳時代への過渡期」の住居を掘った経験は、何より貴重である。疲れもするが楽しい発掘調査と、忍耐の多い報告書作成作業を経て、ようやく遺跡の姿がわかり、考古学を理解するようになるのである。発掘調査にどっぴりとつかってこそ、古代人はほほえんでくれることを信じよう。

とはいえ、今年、報告書作成は困難を極めた。もっとも大きな原因は、奄美の発掘の結果や意味を結局だれもはっきり理解しておらず、このことで作業が遅れ、これがすべての報告書作成に影響してしまったことである。来年は同じ轍をふまぬよう、皆で心して臨みたい。なお、椿原古墳と城ノ本遺跡の報告書は、それぞれ独立したものを、宇土市と蘇陽町から出すことになっている。

4箇所の調査にあたっては、多くの機関・個人に助けていただいた。ことに奄美での継続調査を許可してくださった長島公佑氏、宿舎を提供してくださった林美代氏には厚く感謝したい。このほか宇土市教育委員会、蘇陽町教育委員会、笠利町教育委員会、西原村教育委員会、長島商事かごしま熱帯植物園、同笠利分園、有馬和博区長をはじめとする用集落の方々にお世話になった。また報告書作成にあたって以下の先生方に助けていただいた。記して感謝申しあげる。黒住耐二氏、田中均氏、樋泉岳二氏、中山清美氏、成尾英仁氏、松隈明彦氏、松本幡郎氏、目崎茂和氏。

1996年12月29日

木下 尚子

## 例 言

- 本書は熊本大学文学部考古学研究室による鹿児島県大島郡笠利町用字見崎所在の用見崎遺跡の発掘調査報告である。
- 発掘調査は考古学実習として研究室が起案し、笠利町教育委員会の協力を得て実施した。
- 調査期間中は、長島商事かごしま熱帯植物園ならび同笠利分園、笠利町役場、笠利町立歴史民俗資料館および用集落の皆様には、全面的な協力をいただいた。
- 貝類の分析は、千葉県立中央博物館研究学芸員の黒住耐二氏にお願いした。
- 獣骨・魚骨の鑑定は早稲田大学の樋泉岳二氏に、石材の鑑定は元熊本大学教授の松本幡郎氏にお願いした。
- 調査は1996年7月11日に開始し、7月22日まで計12日間にわたっておこなった。
- 本書の編集は若杉竜太・尾上博一がおこなった。執筆者名は、各文末に記した。
- 調査参加者は以下のとおりである。

木下尚子 小畑弘己 藏富士寛（以上教官）  
本田浩二郎 若杉竜太（以上大学院1年次生） 尾上博一（研究生）  
山内淳司（教育学部大学院1年次生）  
上田健太郎 佐野朝子 西山由美子 濱田智美 藤江望 藤木聡（以上学部3年次生）  
江島賢一 小倉卓 小路岳彦 谷直子 辻村美代子 林季美子 福岡理恵 藤本圭司  
藤原由博（以上同2年次生）
- 調査および報告については以下の方々にご協力、ご指導いただいた（五十音順 敬称略）。

中山清美（笠利町立歴史民俗資料館副館長） 成尾英仁（鹿児島県立博物館学芸員）  
松隈明彦（九州大学助教授） 目崎茂和（三重大大学教授）

# 本文目次

一	遺跡の位置と環境	1
二	調査の概要	4
	1. 調査に至るまでの経過と過去の調査	4
	2. 調査の目的と経過	4
	3. 層序	6
	4. 遺物出土状況	11
三	出土遺物	14
	1. 土器	14
	2. 石器	18
	3. 貝製品	20
	4. 自然遺物	23
四	まとめ	29
付	崇寧通宝	30
	用見崎出土の脊椎動物遺存(予報)	33
	1996年の用見崎遺跡調査でコラムサンプリングから得られた貝類遺存体	35
付編	西原F遺跡	43

# 挿図目次

第1図	南島中部圏における兼久式土器 および併行期土器出土遺跡分布図	第16図	リュウキュウヒバリ分布図
第2図	笠利半島地質図	第17図	マガキガイ分布図
第3図	遺跡周辺地勢図	第18図	サンゴ・炭化物分布図
第4図	遺跡周辺地形測量図	第19図	崇寧通宝拓影図
第5図	土層断面図	第20図	当十銭出土遺跡分布図
第6図	遺物出土状況	第21図	出土石器石材構成図
第7図	出土土器実測図(1)	第22図	周辺遺跡分布図
第8図	出土土器実測図(2)	第23図	遺跡周辺地形測量図
第9図	出土石器実測図	第24図	基本土層断面図
第10図	出土貝製品実測図(1)	第25図	各グリッド掘り下げ進度 および出土石器一覧図
第11図	出土貝製品実測図(2)	第26図	石器出土状況平面図 および出土石器垂直分布図
第12図	自然遺物出土状況	第27図	出土石器実測図(1)
第13図	ヤコウガイ、獣骨・魚骨分布図	第28図	出土石器実測図(2)
第14図	タカラガイ分布図	第29図	採集石器実測図(3)
第15図	アマオブネ分布図		

# 表 目 次

- 第 1 表 出土土器観察表  
第 2 表 兼久式土器共伴石器出土遺跡一覧表（奄美大島）  
第 3 表 兼久式土器共伴貝製品出土遺跡一覧表（奄美大島）  
第 4 表 自然遺物一覧表  
第 5 表 当十銭出土遺跡一覧表  
第 6 表 用見崎遺跡コラムサンプリングNo.2（B-4区）より検出された脊椎動物遺存体  
第 7～12表 用見崎遺跡のコラムサンプリングから出土した貝類遺存体の組成  
第13表 出土石器観察表

# 図版目次

- |      |                 |      |                         |
|------|-----------------|------|-------------------------|
| 図版 1 | 上 用見崎遺跡遠景（東側より） | 図版 6 | 上 環状ヤコウガイ製品             |
|      | 中 用見崎遺跡近景（北側より） |      | 中 A 貝製玉                 |
|      | 下 B-3区遺物出土状況    |      | B（左）貝製品破片<br>（右）有孔サンゴ製品 |
| 図版 2 | 上 A-2区遺物出土状況    |      | C 崇寧通宝                  |
|      | 中 A-2区遺物出土状況    |      | D 匙状貝製品                 |
|      | 下 A-2区遺物出土状況    |      | E トドロキガイ製品              |
| 図版 3 | 上 エレベーション風景     |      | 下 自然遺物                  |
|      | 中 調査終了時の調査区     | 図版 7 | 上 西原F遺跡遠景（東側より）         |
|      | 下 現地説明会         |      | 中 調査前の遺跡近景（南西側より）       |
| 図版 4 | 上 出土土器（1）       |      | 下 H8グリッド南壁セクション         |
|      | 中 出土土器（2）       | 図版 8 | 上 スクレイパー出土状況            |
|      | 下 出土土器（3）       |      | 中 出土石器                  |
| 図版 5 | 上 出土石器（1）       |      | 下 採集石器                  |
|      | 中 出土石器（2）       |      |                         |
|      | 下 有孔貝製品         |      |                         |